

熊谷うちわ祭（熊谷八坂神社祭礼行事）

熊谷うちわ祭が開催される毎年 7 月の 3 日間、熊谷の市街地は様々な音色と色彩に包まれます。この 3 日間、12 の地区から集められた参加者が装飾を付けた山車を担ぎ、音楽に合わせて街中を練り歩きます。

急上昇する温度のためのうちわ

熊谷うちわ祭は、大厄災を追い払うため、熊谷市の愛宕八坂神社で神道の儀式として 18 世紀中ごろに始まりました。19 世紀中ごろには、熊谷市の街路を進む巡行も、この祭りの一環となります。一般の家庭や店舗が、悪を追い払うと信じられている縁起のいい食べ物、赤飯を配ります。20 世紀明け頃より、地元の商人は赤飯の代わりにうちわを配るようになります。熊谷市は、関東地方の中でももっとも暑い場所の 1 つで、うちわが大きな人気を博しました。時の流れと共に、熊谷うちわ祭の目的は、大厄災の防止から五穀豊穡や商い繁盛へと変わり、装飾の施された山車の巡行は今ではこの祭りの特徴となっています。

三日三晩の色鮮やかな山車とお祭り騒ぎ

熊谷市の 12 町が、精巧な彫刻と装飾が施された山車を誇らしげに引き、熊谷の市街地を行進します。このうち 7 つが高さ 9 メートルにも及ぶ山車で、そこには太鼓の神々や歴史的人物などが描かれています。残りの 5 つは、山笠よりも背が低い屋台と呼ばれる神輿です。いずれの神輿にも太鼓、鐘や笛をならす奏者が乗っており、提灯を担いだ者たちがこれに続いて行進します。

7 月 20 日の正午になると、12 町の代表団が愛宕八坂神社から神輿をかついで市街地へとやってきます。それから、夕暮れになると、熊谷駅近くのお祭り広場へと神輿が戻って来ます。神輿は、各町の色衣装を身に着けた一団が長いなわを使って引きます。日が暮れる頃になると、神輿は提灯でライトアップされます。

折り畳み式の神輿と情熱的な音楽家

2 日目、熊谷市国道 17 号は通行止めになり、ここを正午の山車と屋台が巡行します。歩行者が国道を歩き、道沿いの屋台で食事を楽します。山車は、道中の歩道橋の下でもくぐるよう、折りたためる仕組みになっています。夕方になると、駅前で神輿がうちわ状に並びます。

最終日には、祭りのクライマックスとして熊谷駅前で神輿が並びます。各町区の一団が声を張り上げ、元気いっぱい楽器を鳴らし、来年の祭りの大総代に選ばれるため競い合います。熊谷うちわ祭は、熊谷市指定無形民俗文化財です。